

音を出したときのようすに着目した，問題解決の授業づくり

(1) はじめに

「音を出して調べよう」の単元では，単元の導入で自作の楽器や身の回りの楽器を使って音を出す時間を十分に取るようにする。音を出したときのようすについて話し合い，問題を見いだしていく。観察・実験に児童が取り組む中で，音を出したときの物の震え方に着目させ，音の大きさを変えたときの現象の違いを比較しながら，音の大きさと物の震え方との関係を調べさせる。その際，紙笛や輪ゴムギターの活動で気付いたことを基に，他の楽器を使っても同じことが言えるのか，グループで相談しながら問題の解決を図ることができるようにする。たくさんの楽器に触れることで，震え方の差異点や共通点に気付かせる。また，付箋やビーズを使うことで視覚的・体感的に捉えられるようにする。

(2) 授業の実際

【音を出す活動】

- ◎ 前時の子どもの振り返りから「他の楽器でも音が出ているときは震えるのか」という疑問に注目して授業を展開した。音楽室にたくさんの打楽器を用意し，実体験を通して問題解決できる場の設定を工夫した。特に，震えを感じやすい楽器として打楽器系がよいと考える。

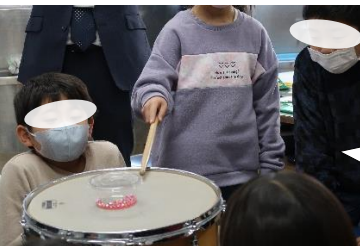


- ・どの楽器も震えを感じた。
- ・大太鼓は近くの空気が震えている。
- ・シンバルや音叉，トライアングルは，楽器が震えているのが見えた。
- ・音が出てないときは震えていない。

- ◎ 子どもは，音が出ているときの楽器のようすを調べる活動に進んで取り組み，友達と協力して調べたり，実験結果などを互いに伝え合ったりしながら，問題解決することができた。
- ◎ 大太鼓と小太鼓を比較して音の大きさと震え方に違いがあることに気付いたことで，次時への学習につなげることができた。また，様々な楽器を用意したことで，子どもたちの気付きに広がりが見られた。

【視覚的に捉える活動】

- ◎ 楽器に触れることを通して，音を出すと物が震えることを感じることはできたが，より理解を深めるために視覚的に捉えさせる場面を設けた。



- ・シンバルに付箋を付けると震えが見える。
- ・ビーズを使うと震えに合わせて跳ねるのが見えるから分かりやすい。

- ◎ 全員で音の震えを視覚的に確認したことで，本時の学習内容の定着と深化を図ることができた。
- ◎ 子どもの振り返りに，「打楽器以外の楽器も震えるのか実験したい」という，新たな課題の発見が見られた。

(所属：本宮市立糠沢小学校 藤堂 剛史)